

平成29年12月12日(火)

老球の細道376号

## スポーツの公共性について

バ会津バスケットボール協会 室井 富仁

大相撲の横綱日馬富士の暴行問題によって相撲協会のガバナンス能力が問われている。ちょっと前まではわがバスケットボール協会もFIBA(国際バスケットボール連盟)からガバナンス能力の欠如を指摘され制裁措置(まだ完全には解除になっていない)を受けた立場なので他人事とは思えない。

今回、相撲協会が露呈したのはガバナンス(統治)能力の欠如だった。事件が発覚してからもなかなか進まない事実解明。これには事件関係者である貴乃花親方の姿勢に問題があったと思う。自らの弟子が被害者であり、また自らが部長を務める巡業中に起きた問題でありながら、大相撲協会組織による事実の解明に協力姿勢を示さなかった態度は何だったのだろうか。学校で起こった生徒指導問題で、学校側が事実解明をしているのに被害者の親が一切学校に協力しないようなものである。問題解決が遅れるのは必然だ。

10年前にも暴行によって死亡事件があり、暴力根絶を角界全体で誓ったはずなのに、会見で日馬富士は「後輩の礼儀と礼節がなっていない時に、それをただすのは先輩の義務」と述べ、あいかわらず旧態依然の暴力体質が露呈した。今やスポーツ界は暴力根絶絶対の時代。相撲界といえ例外ではない。「以前であれば許された」のに「今は許されない」。「以前であれば考慮しないで済んだ」のに「現在では考慮せざるをえない」のである。

相撲もスポーツである。スポーツは社会によって規定され、社会の要請に応えることによって現在の形になってきた。プロスポーツを含むトップスポーツ、トップアスリートはその競技全体を象徴する存在でもある。それゆえ大きな社会性をになっているのは自明である。スポーツ界が社会全体の動きに無関心でいても許される時代は終わった。現在日本で問題になっている企業の不正や隠ぺい問題と同様、問題が発覚したら早急に対処し、対策を取らなければならない。それを怠ったスポーツ界はいずれ滅びる。

10年前になるだろうか。日本体育協会「上級コーチ」の講習会において「競技者を取り巻く新しい環境と適切な対応」という講義で「スポーツの公共性」について学ぶことができた。このとき強調されたことは、これからのスポーツ界に求められるものは「透明性に関する要求の増大」ということであった。スポーツ界内部で完結したことが、それではすまなくなるという話だった。マラソンの五輪選手選考などが社会問題にまで発展する。組織外部に対する「透明性」と「フェアネス(ルールを守る)」は納得、理解を得るために不可欠となる。福島県バスケットボール協会も「社団法人」となり公益法人となったので、従来のように関係者だけ知っていればいいという時代は終わりを告げたのである。

スポーツの「公共性」が高くなった今、スポーツ界は特に3つの高い基準が要求されていることを肝に銘じなければならない。①ディスクロージャー(情報開示)②アカウントビリティ(説明責任)③コンプライエンス(法令順守)である。特に「危機管理」を徹底することとアカウントビリティを果たすことが組織のガバナンス力を高める。

私たち指導者も、指導する内容、練習場面を公開し、なぜそのような練習をするか、指導をするか、選手選考の基準などを保護者や関係者(ステークホルダー)に丁寧に説明責任を果たし、法や倫理などに則った指導をしていかなければならない時代である。